

ABIC 国際社会貢献センター

Information Letter

No. 66 2023年4月

政府機関関連への協力	中小企業に対する貿易管理体制構築への支援	2
研 修	ドイツ語の講師を終えて	3
自治体・中小企業支援	コロナとの戦い	4
教 育	教壇は学び直しの場	5
	国際化社会における英語によるコミュニケーション能力の重要性について —和歌山県立那賀高等学校国際科での出前授業—	6
	第14回ABIC大学講師勉強会を開催	7
留学生支援	東京外国語大学の「日本語広場」	8
	留学生支援バザー	9
その他	ABICでの私のチャレンジ	10
	未来を担う会社には社会的意義を感じて —株式会社帝国電機製作所社外取締役として—	11
	会員の種類	12
	法人・個人正会員／賛助会員一覧、活動会員数	12
	賛助会員入会のお願い	12

特定非営利活動法人 国際社会貢献センター (ABIC)
Action for a Better International Community

www.abic.or.jp

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-2-1
霞が関コモンゲート西館20階
Tel : 03-6268-8604 Fax : 03-6268-8652
e-mail : mail@abic.or.jp

(関西デスク) 〒541-0053 大阪市中央区本町4-4-24
住友生命本町第2ビル9階
Tel : 06-6226-7955
e-mail : kansai-desk@abic.or.jp

政府機関関連への協力

中小企業に対する貿易管理体制構築への支援

はぎわら よしのぶ
萩原 良信 (元 伊藤忠商事)

経済産業省による中小企業の安全保障貿易管理体制構築を支援する事業「重要技術管理体制強化事業（中小企業等アウトリーチ事業）」があるが、その担当アドバイザーとしての仕事に興味はないか、との打診が2021年5月にABICよりあった。お聞きすると、昨今特に中小企業や大学等の民間技術・ノウハウが危険な国やテロ国家に流れ、軍사용途（核・生物・化学兵器およびミサイル、通常兵器の開発・製造）に転用される外為法違反事例が急増、当局として早急な対策を迫られての事業とのことであった。

私は伊藤忠商事在職中の1987年4月28日より、いわゆる「東芝機械ココム違反事件」（伊藤忠商事が船積代行者として関与）解決の実務担当者として、第一審判決が確定した翌年3月22日まで、東京／ワシントン間の往復や内部規程の原案、研修計画などの策定で多忙な11ヵ月を過ごした経験がある。その時に日本に上陸したといわれている「コンプライアンス」という言葉の意味も熟知している。また、1989年4月には、「国際的平和及び安全の維持^{けいもう}」を目指し、わが国唯一の「貿易管理問題」を研究・啓蒙する「安全保障貿易情報センター（CISTEC）」が設立され、設立準備委員会のメンバーとして参画する機会をいただいたことも得難い経験となっている。

ただ、それは35年も前のこと、よわい古希を過ぎた私ではお役には立てないのではないかとの思いがあったが、ABICより重ねてのお誘いをいただき、応募することとなった。

事業を請け負った大手総合研究所の一つ「株式会社船井総合研究所」に応募、採用に至ったのは同年7月1日のことである。

具体的な業務の内容は、従来貿易管理経験のない中小企業に対し、ふさわしい内部規程・審査フローの策定、教育・監査の方法、組織・人員の配置他、もろもろの体制構築作

業のために、4～5ヵ月をかけて、4～5回の打ち合わせで支援を行うものである。私の場合、1年目の2021年度は10社、2022年度は14社に対する支援を完了したところである。



オンライン研修用録画より

また、アドバイザーが担当して、経済産業省、各地の商工会議所主催の制度説明会の講師を務めることも重要な業務の一部となっている。最近のコロナ禍の下、オンラインにてあらかじめ準備した講師の講義録画を視聴してもらっているが、コロナ禍が落ち着いた頃合いを見て、全国各地の会場に希望する企業に参集いただいた説明会も実施している。

「東芝機械ココム違反事件」当時は東西冷戦の終結前で、いわゆるココム（対共産圏輸出統制委員会）が規制する高度な貨物・技術が東側に流れることを管理していたが、今や技術の飛躍的進歩により民需用品が簡単に軍需用途にも転用される時代で、高度な貨物・技術でなくとも、最終需要者の素性と、最終用途のチェック・管理を輸出者自身が行わねばならない難しい環境となっている。最近、ウクライナ侵攻で撃墜されたロシア軍のドローンの中には、高級な日本製レンズや電池、小型モーターが搭載されていたという事実が、それを物語っている。このような状況下、資金・人員共に限られる中小企業にとっては、予期せぬところで外為法違反の罪を犯してしまうことになる。

現在、中小規模の事業者は350万者（全事業者の99.7%）ともいわれている。TVドラマ「下町ロケットの佃製作所」のような高度な技術を持った企業は数多くあるが、貿易管理関連法令や制度には、中小企業にとって容易には理解し難い面が多々存在する。しかし、企業の内部にでき得る限り入り込み、傍らに寄り添った支援を行えば、砂に水が染み込むがごとくに理解いただける企業が多く、アドバイザーの励みとなっている。

以前もABICには中堅商社の駐在員赴任前研修や、大学における非常勤講師の機会をいただいたが、今回も極めてやりがいのある活動の場を提供いただき、感謝に堪えない次第である。



大阪の政府合同庁舎での説明会風景

研 修

ドイツ語の講師を終えて

ともなが 友永
たかひろ 隆浩 (元 三井物産)

60歳の定年退職を前にしてこれから何をしようかと考えた揚げ句、好きな仕事をいろいろしたいと思い、選択肢の一つとしてABICに登録をしてみることにした。現役時代に日本貿易会の委員としてお世話になっており、ABICの活動は当時より関心を持っていた。ABIC登録のキーワードとして駐在経験ドイツ10年・ベルギー5年、得意分野は環境・リサイクル、語学はドイツ語を強調しておいた。気長に待っている間、環境・リサイクルのコンサルティングの合同会社を設立し、少しずつ仕事が回り始めていた。その頃ABICより連絡をいただいたのが、ドイツ語の講師の話である。今までのサラリーマン人生で語学の講師の経験はまったくなく、どうしたものかとやや逡巡したが、せっかくABICからいただいた話でありお掛けすることに決めた。私のドイツ語との関わりはやや変わっており、高校の授業でドイツ語を学び、大学受験も選択した外国語がドイツ語であった。大学在学中に1年ドイツで過ごし、ドイツ駐在時代は、現地企業とはドイツ語で仕事をしていた。つまりドイツ語が好きなのである。

ご依頼をいただいた企業は、船舶関連メーカーでドイツの企業を傘下にし、ドイツ駐在を予定している社員、出張が多い社員を対象に、現地での日常会話、生活に必要な情報等の講習を希望されていた。語学研修を手がける会社からABIC経由でこのお話をいただいた。私はデュッセルドルフに約10年駐在しいろいろな経験をさせてもらった。ドイツ語のみならず、実際ドイツの生活で役に立つコツを伝授できると思い、ドイツ語講師としての意欲が湧いてきた。

しかし、ドイツ語を人に教えることはまるで初めてである。どのくらい理解してもらっているか不安な面もあるが、



オンライン講習の様子

まずは慣れ親しんでもらうことを優先した。自分が新入社員の頃、疲れ果てた夕方から会社の会議室で英語研修を受けたことを思い出し、忙しい仕事の合間に時間を割いて講習を受ける身になってみると、宿題やテストはせず、気楽にドイツ語に親しみ、ドイツの文化や習慣をなるべく伝え、ドイツを好きになってもらうことに重点を置いた。

ドイツ語講習は2022年2月1日から2023年1月末までの1年間を、前半は週2回、後半は週1回、1回1時間で計80回のオンライン講習を行った。受講者は4人、ドイツの子会社との仕事に従事している方々で、ドイツ語を習うのが初めてである。アーベーツェー(ABC)、冠詞・不定冠詞、男性・中性・女性名詞等々文法の基本から始め、タクシー、ホテル、アパート、レストラン、オフィスで使うドイツ語やドイツ人との日常会話、また自己紹介、日本とドイツの違い、ちょっとしたフレーズ等を経験に基づいた例文を作りパワーポイントで繰り返し教えるかたちをとった。講習期間の間でも受講されている社員の方が入れ代わり立ち代わりドイツに出張に行かれ、講習で教わったドイツ語を話せたとの報告は大変うれしかった。

ドイツ語に限らず、英語圏以外の国に駐在する日本の企業人にとり、その国の言語は生活する上で必要である。商社の海外駐在で現地の言葉を体得した経験者が、その国の言葉や習慣を事前に伝授することは、これから駐在する人に安心感を与えその国について視野を広げて見ることができると思う。商社で務めてきた私が定年後、社会に少しでも貢献できるとすれば、日常使うドイツ語や駐在時の経験からのノウハウを次の世代に伝えることもかもしれない。

この仕事を今日中にやらなければなりません。
Ich muß heute die Arbeit schaffen.

Wichtig!
重要!

Diese Arbeit muss heute erledigt werden.

がんばってください。
Viel Glück! (Ich bin glücklich.)

うまくいくといいですね。
Ich hoffe, es geht gut. Ich hoffe, es klappt.
Ich wünsche Ihnen, es geht gut.

うまくいきましたか?
Ist es gut gelaufen?

うまくいっているのでしょうか?
Ist es gut gelingend? Klappt es?

やりましたね。
Sie haben es geschafft.

schaffen : やる, 作る
erledigen : 片づける, 処理する
klappen : パタンとする, うまくいく
gelingen : 成功する

ドイツ語テキストの一部

自治体・中小企業支援

コロナとの戦い

うえい たかし
上井 傑 (元 三菱商事)

2019年の仲秋、20年以上駐在していた中国から戻り、東京でのリタイア生活をスタートしたところ、三菱商事時代の旧友の勧めでABICに登録した。体が健康なうちに、日本社会への「恩返し」ができればと思っていたところであり、渡りに船であった。

ただ、思いがけず、翌年（2020年）早々コロナが来襲し、旅行などの計画は全てキャンセルになった。豊かな第二の人生に憧れていたが、一瞬で白紙に戻ってしまった。無益に時間が過ぎる日々であった。

転機になったのは2020年末にABICから連絡が来たことである。「某大手自動車部品会社より誘いがある」とのこと。Online Meetingおよび面談を経て、2021年3月から本社にてオリエンテーションなどを受け、8月に「矢崎（中国）投資有限公司」にOn Boardした。

「防疫優等生」といわれていた上海に到着してみたら、丸2週間の隔離を余儀なくされた。郊外の隔離施設で部屋から一歩も出られず、一日三食はドアの傍らにある椅子に置いた弁当。ノック後、取って食べるという状況であった。朝晩に1回ずつ検温し、2週間で4～5回のPCR検査を受ける。PCでメールのやりとりやネット会議参加などの仕事はなんとかこなし、SNSで同僚や友とのコミュニケーションにも支障がなかった。

隔離完了後に出社して約半年間、ほぼ正常に勤務ができたが、2022年3月末には上海のロックダウンに遭遇した。最初は、4日間で終わるという通達であったため、余裕をみて買いだめをしたが、思いがけず2ヵ月以上続くことになった。1週間も持たず、わが家の冷蔵庫は空っぽになった。同僚に状況を確認したところ、食料品が全くなかった人も出始めた。緊急に所在区の副区長に連絡し、日本人駐在員のリストを送付。直ちに区政府から食品配達が行われた。その後、仕事を優先的に再開する企業リストに社名を乗せるため、上海市商務局傘下の上海市外商投資協会や

合作パートナーの協力も得られて実現した。

6月に入ってやっと仕事は全面回復するようになったが、PCR検査の日常化や各地域政府の防疫対策強化によって、移動や出張などに大きな支障が出ていた。1日の出張のために、3日前の前乗りを余儀なくされた。なぜなら3日の隔離後、PCR陰性が証明されて初めて行動できるからである。

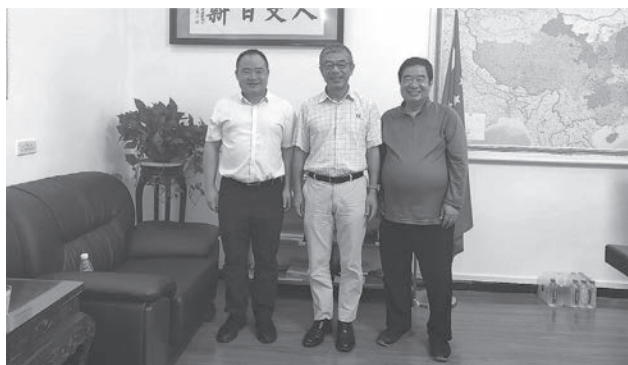
しかし冬に入って、各地で非常に厳格なポリシーの下でも感染コントロールができず、「全面開放」にかじを切った。12月中旬から、会社内で80%以上が感染し、皆1週間～2週間の休みになってしまった。

2022年の「ゼロコロナ」と「全面開放」で企業も個人も大変な1年だったが、その状況下でも矢崎中国は、困難を乗り越えて、多大な努力を惜しまなかった。

まず、「現地化」をはじめとする改革をスタートさせ、生産製造拠点の「コストダウンと効率化」を考案し、パイロット・プロジェクトを推進した。その結果、目に見える収益改善を実現した。さらに中国新戦略を定め、従来の日本車を中心に外資系車メーカーへ納入するビジネスモデルから中資系車メーカーとのビジネス開拓へのシフトもスタートした。中国にある部品サプライヤーとして、NEV車（新エネルギー車）の世界トップの地位に立つ中国企業は無視できないからである。

2022年末には各地に感染が広がっているにもかかわらず、矢崎中国のチームは広州市で開かれた「2022年広東香港マカオ大湾区グローバル投資大会」に出席し、省政府トップへの直接対話にて中資車企業とのパートナー関係構築のサポートを要請した。

新年に向かって矢崎中国の新しい取り組みへ貢献したい。それとABICにこの貴重な出会いをつくっていただいたことを感謝したい。



地方政府訪問（中央が筆者）



工場視察（後列右から5人目が筆者）

教育

教壇は学び直しの場

なかの のりこ
中野 教子 (元 P&Gファーマー・イースト・インク)

人生100年時代というが、100年人生の中間地点を折り返した私に、何かこれまでの経験を生かして社会貢献できることはないか、そう考えていたときに、2017年末にABICから文化学園大学の「Global Management」の講座のお話をいただいた。この文化学園大学の講座を皮切りに、2021-2022年まで立命館アジア太平洋大学 (APU) の「経営戦略論」、そして2022年からは一橋大学の留学生向けに英語で「Japanese Business」の講座を担当する機会をいただいた。

それまでは、社内外の研修講師やカンファレンスでの発表を英語や日本語で行った程度で、学生向けの授業を連続的に行ったことがなかった。従って、最初は学生の反応が予想できず、自宅で何回も授業のリハーサルをしたものだった。今でも初回の授業は緊張するものだが、2回目以降の授業では学生の反応も分かってくるので、学生の様子を見ながら話の仕方を変える等の対応ができるようになった。

授業は、私が「教える」というのはおこがましいので、どの授業もグループディスカッションに約50%の時間を費やし、学生同士が考え、気づき、そして学ぶ形で進めている。そうはいっても基礎的な理論は押さえておいた方がよいと考え、学部生対象の授業ばかりだが、MBA時代のテキストを買い直し、Google Scholarで文献を調べたりして、授業の資料を作り込んできた。調べてみると、MBAでは学ばなかった新しい理論が幾つも出てきており、「古いことにこだわってはいはだめだ、戦略は進化している」と、痛感することが多い。



ESOMAR(欧州世論・市場調査協議会)の
シンガポールでの講演の様子

2020年からはコロナ禍の影響で、授業はすべてオンラインで行われた。大学によって使うデジタルツールが異なるため、慣れるまでは試行錯誤の連続だった。だが、使い慣れてしま



オンライン授業の様子

うと便利なもので、オンライン上で出欠確認、オンラインクイズを出題等、デジタルツールを駆使した。ただし、オンライン授業は良いことばかりではない。APUのオンライン授業では、受講生数が100人以上だったため、通信トラブルで何度も授業に入り直した学生がいた。また、グループワークにしても、対面授業のように各グループのディスカッション状況を肌で感じ取ることができなかったのは、少し残念だった。

一橋大学では、2022年春から対面授業に切り替わったため、マスクを着けながらであるが、インタラクティブに授業を行うことができた。対面授業では、教室を動き回り、黒板を使うことができるので、授業が単調にならず、学生の雰囲気によって臨機応変に進め方を変えることができた。学生にとっても、グループワークは楽しいようで、授業中は静かだったのに、グループワークでは急に活気が出た。肌で学生の活気を感じると、こちらの気持ちも高まる。対面授業の良い面を再認識することとなった。

留学生のグループワークからは、私自身の「気づき」があった。あるグループは、日本で成功している外資系企業について、いかにその企業が過去の日本市場での失敗から学び、戦略を変えて日本での事業の成功につなげたかを分析して発表した。また、グローバルチームビルディングの提案では、日本人とドイツ人がお互いの国の料理を作って競い、最後にビールで乾杯してチームの結束力を強める提案をしたチームもあった。

ただ、いつも気になるのが、「私の授業は本当に役に立っているのか？ このやり方で良いのか？」という点である。12月の授業終了直後のこと。駆け寄ってきて、「Thank you. This class was one of my favorite classes.」と言ってくれた学生がいた。ほっとした。いや、ほっとばかりもしてられない。次の授業も役に立つ内容にしよう。意識は次に向かっている。

教 育

国際化社会における英語によるコミュニケーション能力の重要性について —和歌山県立那賀高等学校国際科での出前授業—

招和法律事務所 弁護士 ^{おか い}岡井 ^{か な よ}加女代

1. 私とABICの関わり

私とABICとの関わりは、ABIC会員からお誘いいただき、登録をさせていただいた2019年10月からである。

私は、現在、弁護士として活動しているが、大学卒業後の留学、弁護士登録後のロースクール留学（米国カリフォルニア州）の経験がある。この経験に基づき、和歌山県立那賀高校国際科1年生に、英語とキャリア形成についてお話をさせていただく機会を得た。

2. 那賀高校国際科での出前授業

那賀高校からいただいた授業テーマは、1) 英語学習とキャリアデザイン、2) 英語プレゼンテーションについて、であった。

私は、1) の英語学習とキャリアデザインというテーマについて、そもそも現在の高校1年生が今後大学、大学院を経て4年ないし6年後に社会へ出ていくとき、キャリア形成に英語は必要か、有益かということはそもそも論じるまでもないという考えであり、そこから話を始めることにした。

3. 今の社会において英語は必須なのか

この問いに対し、私はまず生徒たちに「Absolutely, yes」と答えを示した。しかし、授業を聞いている生徒たちがどこまでこの感覚を共有しているのか疑問があった。「現代は国際化社会であるから英語は必須である」という漠然とした議論は理解できるとしても、英語学習に対するモチベーションにはつながらない。

そこで、私のこれまでのキャリア形成と英語との関係を説明した。私は、弁護士になる前に、製菓、法律、金融業界で仕事をした。各業界において、英語は必須であり、国際化がより進んだ金融業界では社内のコミュニケーションを含めて仕事のほとんどが英語で行われていた。この経験から、「英語がキャリア形成にとって必要か」という議論はすでに意味がなく、コミュニケーションツールとしての英語能力をもって何をするのか、どのようにキャリアを形成するのかがより重要であると結論づけた。

4. 「Keep looking, Do not settle」

英語がキャリア形成に必須かという問いに対する答えを出すよりもはるかに難しいのは、将来何をするのか、何がしたいかを見つけることである。これは簡単な問いではない。しかし、この答えは、自分で見つける以外にない。

まだはっきりとした答えのない生徒たちに何らかのヒントになることを期待し、Apple Inc.の創始者であるSteve Jobsのスタンフォード大における卒業式におけるスピーチを紹介した。彼はこのスピーチの中で、興味の持て



授業の様子

ることにいろいろとチャレンジすることの必要性を述べた。挑戦の時点ではそれがどこにもつながらないように思える。しかし、それらの経験の一つ一つが将来1本の線となって自分のやりたいことにつながる、つまり経験は決して無駄にならないと述べた。さらに、彼は本当にやりたいことを探し続けること、それを見つけるまで決して妥協しないことの大切さを述べた。この先人からのメッセージが高校生に響いたとしたら幸いである。

5. 日本に居ながらにして英語漬けの生活は可能か

最後に英語の能力を上げる方法について話した。私の英語能力が飛躍的に伸びたのは留学時であったから、日本の高校生全員に対して汎用性のある方法ではない。しかし、留学時に英語力が伸びるのは「英語漬け」になるからであり、その方法を日本でも実践することはできる。

毎日を英語漬けにする私の毎日の学習方法を紹介した。近年はPodcastで海外のニュースチャンネルを聞くことができるし、世界のニュースを同時に英語で読むことができる。そして、知らない単語は英語で調べ、英語で意味を理解しインプットすることの大切さを説明した。日本にいても自分を英語漬けにすることは難しくない。やる気の問題である。

6. 最後に

授業の最後に生徒に、「The world is your oyster」という言葉を贈った。まさに、これからの世界は彼らのものである。1人でもこの授業をきっかけに自分の将来を考え、キャリアを切り開いてくれる生徒がいれば幸いである。

教 育

第14回ABIC大学講師勉強会を開催

大学講座担当コーディネーター **たきもと 龍本 忠** (元 住友商事)

2023年2月2日にABICが主催する「大学講師勉強会」を約3年ぶりに開催した。ABICでは2000年の発足以来、大学・大学院やエクステンションセンターなどへ数多くの会員の方々を講師として派遣している。派遣先は当初より年々拡大を続け、また講義内容も多様化してきており、2022年度では、29の大学・大学院、年間79講座、1,089コマ、延べ200人を超える講師を派遣している。このように大学など出講先から信頼を得、長年にわたり数多くの講師を派遣できているのは、ひとえにこれまで講師として活動いただいていた会員の皆さまのご尽力のたまものである。ABICでは従来、新しく講師として活動いただくために、比較的最近会員になられた方のうち大学での講義にご興味をお持ちの方々を対象に定期的に勉強会を開催していた。ここ数年はコロナ禍により、この「大学講師勉強会」も2019年11月11日開催の第13回を最後に延期、中止を余儀なくされてきたが、ようやく3年ぶりに第14回の勉強会を開催することができ、定員いっぱいの26人の会員の皆さまにご参加いただいた。

当日の勉強会では、ABIC事務局長のあいさつの後、「ABICが提供する大学講座の現状」につき、大学講座担当コーディネーターより説明した。まず、大学側からの講義要請・ABICによる売り込み→講師選定・大学側承認手続き→講師打ち合わせ・講座開設・実施という講座開設までのプロセス、次に複数の講師が交代で講義を行うオムニバス方式が一般的な講義の形式であること、また大学からの講義受託において、大学と講師の直接契約およびABICの講座受託契約の2種類があることなどを説明した。さらに大学を取り巻く変化として、入学定員厳格化による学生の変化、ICT管理の増加・強化があること、またリカレント教育や実務教育の推進などに触れて、望まれる講師像、講

義の内容・テーマ事例、ABIC講師のポジティブ、ネガティブ両面の評価なども紹介した。また講義資料・講義内容の留意点として、具体的な資料作成事例に沿って分かりやすい資料の作成や講義の仕方、また教育機関における著作権の留意点などについても紹介した。最後に、活発な質疑応答が行われ、参加された会員の皆さまの関心の高さと講師への意欲をうかがい知ることができた。

大学講座のコーディネーターとして日頃大学側と接していると、講師選定や講義内容につき、ABICおよびABICが派遣する講師の方々に対する大学側の信頼の高さを強く感じている。これもひとえにこれまで講師をしていただいた、また現在講師をしていただいている会員の皆さまが、その経験と人間性、そして熱意を持って取り組んでいただき、質の高い講義をしていただいた結果である。

少子高齢化が進み、日本における大学の教育環境、学生と教師を取り巻く環境も大きく変わっていく中で、講義内容の多様化も進み、特に実践的教育、リカレント教育システム、その担い手としてABIC会員のような実務家教員のニーズは今後とも高まっていくと思われる。同時にグローバル人材の育成や大学の国際化がいわれる中、世界各国で経験と実績を積まれたABIC会員は教員としてうってつけの存在でもある。なお、ABICでは英語での講義のニーズも高まる中、「英語で授業をするための講習会」の再開も準備中である。

従来から講師としてご活躍いただいている会員の皆さまに加え、未経験だが講師としての活動にご興味をお持ちの方々、また新しく会員になられた方々にも講師としての活動にチャレンジいただきたく、今回の勉強会がそのきっかけとなれば幸いである。



「ABICが提供する大学講座の現状」について説明する筆者



勉強会の様子

留学生支援

東京外国語大学の「日本語広場」

きたむら ひろし
北村 寛 (元 伊藤忠商事)

東京外国語大学（東京外大）にも日本語広場がある。同大の留学生支援の会が主宰し、同大に滞在中の研究者・留学生およびその家族を対象として、ABICが講師派遣に協力し、初歩的な日本語の指導に当たっている。日本滞在中に日本語に親しみ、日本という国を知ってもらうべく手助けをしているものである。思い返せばこの東京外大での日本語広場発足に大きく関与されたABICのコーディネーターから話をいただき、10年近くにわたりさまざまな国の方と勉強してきた。異文化の方々と多岐の交流ができたことは私にとっても貴重な時間であった。この度講師を退くに当たり記録を見ると、人数で21人、国の数では14カ国の皆さんと勉強してきたことに改めて感慨を覚える。基本的に、受講する方は家族の日本滞在に伴い、自身の希望はさておき、家族と生活を共にするために来日するケースが多かった。ほとんどの皆さんは日本語学習の経験はなく、一からのスタートという状況だった。厚紙でカードを作ったり、漫画の吹き出しを空白にしたり、カルタ式のゲームをしたり…。日本語に興味を抱いてもらうべく、遊びも含めて楽しく勉強できたと思っている。面白さを感じて短期間で上達する方もいれば、時間をかけてもなかなか…という方もいる。語学学習への向き不向きもあるのかもしれない。でもそんなことは問題ではなく、貴重な日本滞在中に、日本語を学ぼうという意欲があり、その結果として日本での時間がより愉快なものとなり、来日して良かったと思ってもらえれば日本語広場の存在意義は意外に大きなものかもしれない。

幾つかエピソードを挙げると、私の最初の受講者は豪州の民族文化研究者の奥さまDさんと、イランのペルシャ語の先生のご主人Rさんの二人だった。二人とも日本についての質問に熱心で、日本語の勉強がそっちのけになることが頻繁にあった。この二人は帰国後も、「あの時間は楽しみでした。でも日本語はすっかり忘れました」とメールをしてくる。楽しい時間を持てたことは私にとってうれしいことだ。Dさんは「ぜひとも」と、東京国際交流館（TIEC）でABICが運営する日本語広場を見学したこともあった。

インドネシア語のK先生は語学の先生にしては日本語の進捗は実にゆっくりで、「ウサギとカメ」のカメさんを思わせる着実な方だった。東京外大の学内で定期的に行われるバザー用と思われるガラスケース入りの日本人形が目に残り、どうしても欲しいと言うので、私から東京外大の

留学生支援の会にお願いをし、超特価でお譲りした。あのうれしそうなK先生の顔…。ガラスが割れずに無事届き、ジャカルタの居間で興を添えているだろうか。

ドイツのご夫婦AさんとMさんは帰国後に街角で見かけた漢字の写真を送ってきて、「この日本語はどんな意味ですか？」と。よく見るとそれは日本語ではなく中国語の商品広告だった。漢字に接した時の欧米人の反応を垣間見る気がした。AさんとMさん、とっさに「日本語だ！」とってくれてありがとう。

内モンゴル（中国）の歴史研究者Tさんは、日本滞在中の生活がよほど気に入ったと見え、「日本語も少し話せるようになり、快適で楽しい経験だった。大学に勤務しているが、再度外国に出る機会があれば日本以外にはない」とうれしいことを言ってくれる。

日本という国に数年滞在した方々が将来もそのことを懐かしんでくれること、場合によりそれを誇りに思ってくれることは、日本人としてはやはりうれしいことである。

述べてきたようにこの日本語広場は、日本語を勉学の本業としている人のためではなく、あくまで滞在者の日常生活に資するために存在する。その意味ではABICがTIECで運営する日本語広場初級と相当部分その理念は重なっている。ここ数年コロナ禍でお休みすることが多く心残りではあるが、後任の講師や他の日本語講師の皆さまが「東京外大の日本語広場」を盛り上げてくださることを心から期待したい。今後も東京外大とABICの提携関係がより広範に、そして日常的なものとして発展していくよう願うものである。



東京外国語大学にて

留学生支援

留学生支援バザー

東京国際交流館

2022年11月19-20日、紅葉の映える中で、秋季留学生支援バザーが東京国際交流館（TIEC）にて行われた。売り上げは約16万円と大きく増加した。これはTIEC居住者の活動資金として提供される有意義なものである。ご提供いただいた寄贈品はダンボール149箱に及んだ。ご支援いただいた皆さまに改めてお礼申し上げる次第。

今回の特徴は、冬を迎えるに当たり衣類およびブランド物の上着類が大量に売れたことで、また皿類も例年通り海外のブランド物も含め多数で提供いただいた。

もう一つの特徴は、防災備蓄用品のビスコを240袋、ミ

ネラルウォーター（500ml）を290本もご寄贈いただいたことで、サービス品として販売し大きな評判を呼んだ。また日本手ぬぐいを130本もご寄贈いただき、こちらも好評を得た。

コロナ入国制限緩和のおかげで新入館者が急増し、この機会を捉えコーディネーターとボランティアの日本語講師数人でABICの日本語広場、日本文化教室の宣伝・勧誘を行い、収穫を得る機会ともなった。次の春季バザーにも引き続き期待したい。

（留学生支援担当コーディネーター）



兵庫国際交流会館

2022年12月10日、2019年秋以来コロナ禍で中断していた新入館生歓迎バザーが兵庫国際交流会館にて開催された。新入館生と既入館者を合わせて約80人が参加した。今回もABIC会員および支援企業とその社員、ならびに日本貿易会の役職員等の方々からダンボール65箱を超える広範囲な品物をご寄贈いただき、売り上げは約3万円となった。この売上金は、同館の留学生支援活動に提供させていただいた。ご支援いただいた皆さまには厚く感謝申し上げます。

今回も3密回避のため、1階の広いイベントスペースにて3時間にわたって行われた。友人の依頼で購入する人も多く見られ、1人当たりの購入額は前回は大きく上回った。

今回の特徴として、下期に入館したアフリカ、中東からの学生が多かったことが挙げられる。日本での厳しい冬を初めて体験するため、防寒具を多く探していた。また、米国、中南米からの学生も冬物を買求めていた。ゼロコロナ政策を取っていた中国からの学生は少なかった。

皆さまからご寄贈いただいた生活必需品は廉価で提供され、来日間もない学生に非常に好評で、関係者からは開催継続を要望された。バザーはRA（Resident Assistant：交流会館居住の日本人学生）が中心となり運営されているが、毎回、ABIC関西デスクおよび活動会員でもあるABIC日本語講師も参加・支援している。

（関西デスクコーディネーター）



その他

ABICでの私のチャレンジ

まつい ようこ
松井 洋子 (元 パナソニック)

私は2016年、在職中に先輩OBに誘っていただいてABIC会員となり、2017年より、まず大学での講義の機会をいただいた。大阪経済法科大学、京都外国語大学大学院、名古屋外国語大学で、いずれも、複数のABIC会員が回り持ちで得意な分野を講義するオムニバス形式の講座だ。私の場合は職歴から、主に「世界の再生可能エネルギービジネス」関連のテーマで、各大学で1年間に1コマ90分を担当している。大学からの希望で、ニュージーランドでのビジネス経験、企業で女性がキャリアを積むこと、出産育児でキャリアを中断しない経験などの話も含めている。当初は、私が大学で講義？？と肩に力が入っていたが、大学教授より実際のビジネスの現場での経験に基づく話ができることは強みであり、学生も気楽に聞いてくれると分かってからは、楽しく講義させていただいている。2大学は今も継続している。1大学で1年に1コマ、とはいえ、年々新しい状況が生まれる分野なので、自らも勉強や情報収集を怠るわけにはいかず、毎回講義の内容・プレゼン資料もアップデートが必要で、かなりの時間を準備に費やすこととなる。でも、講義後には、うまくいったらうれしく、うまくいかなければ次回はこうだろうなどと思い、また、若い学生からのリアクションで自らも学びがあり、結局、やってよかったと思う。特に名古屋外国語大学は、講義後に100人近い受講生からの質問や解答がまとめて送られてきて、それに回答することになるのだが、これも、私の話がよく伝わったと分かるもの、想定以上に反応してくれたものがあり（もちろんそうでない場合も多いが）、こちらが勇気づけられる。途中からはオンライン講義が主流となったが、そのノウハウも他のABIC会員の講師の皆さんと学び合う



オンライン講義の様子

ことができた。

2021年秋には、インテックス大阪での日本の食品の輸出を目指す展示会、“日本の食品”輸出EXPO 2021で、複数のABIC会員と共に福井県の食品関連企業の展示ブースにて、海外企業との商談サポートをさせていただいた。私が担当したのは老舗の和菓子製造販売会社。コロナ禍の国際展示会で、さすがに外国人の姿は少なかったが、海外企業からオンラインでの商談予約が受け付けられており、小型カメラでブース内の和菓子、特に羽二重餅の柔らかさを手で引っ張って見せながら、英語での商談を行った。展示会の担当者がカメラを持って会場を歩き、オンラインで海外企業が指示するブースに次々に立ち寄るサービスも行われていた。前職では同様の展示会の経験も多かったが、デジタル技術の進歩に感心した。

その他には、2022年春に、日本進出を目指すシンガポールの太陽光発電関連企業からの英和翻訳の仕事の機会をABIC経由でいただいた。ABIC会員登録情報の中に、太陽光発電業界の経験、英語翻訳可能、と入れていたため、お声掛けいただいたようだ。海外の勢いのある若い起業家を交えてのオンラインやメールでのやりとりもあり、現役を退いて4年後だったので久しぶりに緊張したが、楽しかった。経験が生かせるまたとない機会をいただいて、ありがたかった。

パナソニックを退職後は、主に気ままな観光通訳ガイドなどを行っているが、ABICからお声掛けいただくものも含めて、組織を退職した後の仕事は、自分の視野を広げる機会だと考えるようになった。でも、ABICのようにこれまでの自分の知識や経験が生かせるものは数少なく、ありがたい。貴重な経験をさせていただいている。



“日本の食品”輸出EXPO 2021の様子
(担当した福井県の和菓子製造販売会社の展示ブース)

その他

未来を担う会社に社会的意義を感じて —株式会社帝国電機製作所社外取締役として—

かわしま いちろう
川島 一郎 (元 伊藤忠商事)

6年前の夏のことだったか、ABIC関西デスクのコーディネーターから、社外取締役を探している会社を紹介され、自分には重すぎる職務と戸惑いながら訪問面談をしたが、お互い波長が合い5年にわたり社外取締役兼監査等委員を続けている。

近年の社外取締役は過去と違い、まず独立役員であることが求められ、過去の親会社や取引先や銀行からの派遣や知人等の選任は株主から強い反対を受けて認められない。今勤務している株式会社帝国電機製作所（以下帝国電機）も取引先出身の社外取締役が株主から反対され、取引のない異業種からの人探しを始め、話がABICへ来たようだ。

社外取締役の職務も大きく変化した。過去は月1〜2回の取締役会に出席、多くはコンプライアンス順守中心に経営陣に助言していた。不祥事には社外役員は何をしていたと非難があるように、これは今も重要な役割である。

しかし、失われた30年といわれる日本経済の停滞もあり、日本の企業を取り巻く経営環境はこの10年で「激変」した。欧米流の企業価値経営である。経営指標（ROAやEBITDAほか）の重視、資本政策による株価上昇指向と株主還元、時価総額中心の企業価値、M&Aの急増、物言う株主の台頭、ジェンダー等社会変革と働き方改革等々である。

この環境変化に呼応して、2015年に政府や東証から出された上場企業向け企業統治指針や投資家向け指針で社外取締役の役割も企業価値向上に重要と見直され、2020年には社外取締役ガイドラインも経済産業省から出された。

ガイドラインは、①リスクの管理 ②経営陣の執行の監視と監督 ③中長期的な持続的成長の経営戦略考察 ④投資家目線の助言 ⑤投資家との対話やIR等への関与等を要請している。社長選任や報酬決定に関与する指名委員会・報酬委員会の設置が求められ、メンバー過半は社外取締役である。取締役会の構成の3分の1以上が法規制だが、今や過半が社外役員である会社が多くなってきている。



取締役会の様子（右から3人目が筆者）

正直6年前に職務を受けた時にこれほど重職になるとは思わなかった。過去の経営や商売で得た勘や経験知などは大切にしつつも、本やネットで日々欧米流経営新知識を学んで重責に応えられる理解力・判断力を磨き、社内経営陣とメールをやりとりする毎日である。

さて、激変した経営環境といえば、最近よく耳にする地球環境や社会環境を守るESGとかSDGsも、大きな社会的貢献と同時に企業価値の持続的向上を可能にする目標である。

帝国電機はこの地球環境・社会環境を守る仕事の真ただ中にある会社である。84年の社歴を持つが、1960年代に開発したキャンドモーターポンプ（canned-motor-pump以下CMP）の製造販売で国内の約70%、海外で約40%のシェアを持っている。

ポンプは通常別々の「液体を吸い上げるポンプ部分」と「装置動力のモーター部分」がカップリングされて使用されており、隙間から液体が漏れる可能性を否定できない。CMPはCanned=缶詰の名の通りモーターをポンプの中に入れて一体化させており、完全無漏えい・外気無接触である。爆発性・引火性・毒性のある液体、高温の液体や化学薬品等を一切外に漏れさせず吸い上げ移送する。液体漏れの損失や危険がなく、公害や環境汚染の心配がない。

用途例は、石油化学・石油精製・電力・半導体などのプラント工場や空調設備などだが、最近は「脱炭素」関連の設備への採用も急拡大している。化石燃料の代替エネルギーであるアンモニアやバイオマスの関連設備や洋上風力発電等に利用されている。クリーンな社会、地球環境や人に大きく貢献している。

つまり帝国電機のポンプを必要とする地球規模の需要の拡大は、そのまま好ましい明日を約束するものと信じられる。今以上の良い製品とサービスが提供できる会社として成長が続くことに社会的意義を感じ、発展のお役に立てるようにこれからも研さんしていきたい。



帝国電機全景

会員の種類

種類	内容	年会費
正 会 員	センターの趣旨に賛同し、活動を推進し、会費を納める個人、法人および団体。（理事会の承認を得て入会）	法人および団体 1 口 50,000円
		個人 1 口 10,000円
賛助会員	センターの趣旨に賛同し、会費を納める活動会員、ならびに個人、法人および団体。	法人および団体 1 口 10,000円
		個人 1 口 5,000円
活動会員	センターの趣旨に賛同し、事業に参加しようとする個人。	不要 — —

(2023年2月末現在)

正 会 員

法人・団体（16社、1団体）〈社名五十音順〉

〈10口〉伊藤忠商事(株) 住友商事(株) 双日(株) 豊田通商(株) 丸紅(株) 三井物産(株) 三菱商事(株) (一社)日本貿易会

〈2口〉稲畑産業(株) 岩谷産業(株) 長瀬産業(株) 日鉄物産(株) 阪和興業(株)

〈1口〉兼松(株) 興和(株) JFE商事(株) 蝶理(株)

個人（13名）〈敬称略・氏名五十音順〉

〈3口〉 檜田松瑩 中村邦晴

〈1口〉 池上久雄 市村泰男 岩城宏斗司 岡 素之 小林栄三 小林 健 齊藤秀久

佐々木幹夫 寺島実郎 宮原賢次 吉田靖男

賛 助 会 員

法人・団体（3社）〈社名五十音順〉

〈1口〉 (有)イーコマース研究所 (株)エックス・エヌ 三谷ビジネスパートナーズ(株)

個人（202名）〈敬称略・氏名五十音順〉

下記は2022年11月以降にお申し込みいただいた方です。ご協力に深謝申し上げます。

〈1口〉 葛城慎輔 渡辺正恭

活 動 会 員 3,007名

賛助会員入会のお願い

ABICの活動にご賛同いただき、資金的な援助をしていただける活動会員およびその他の個人の方、
ならびに法人および団体の皆さまのご入会をお願い申し上げます。

会員入会のお問い合わせ・連絡先

特定非営利活動法人 国際社会貢献センター（ABIC）

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-2-1 霞が関コモンゲート西館20階

TEL：03-6268-8604 FAX：03-6268-8652 E-mail：mail@abic.or.jp